ミス・ミスターコンテスト ファイナリスト決定

No.5　常住（つねずみ） 紅葉（こうよう）さん
文学部英語英米文化学科
Twitter:missgu21_no5
Instagram:missgakushuin_no. 5

No.4　須田（すだ） 美帆（みほ）さん
経済学部経営学科４年
Twitter:missgu21_no4
Instagram:missgakushuin_no. 4

No.3　中村（なかむら） ななみさん
国際社会科学部国際社会科学科３年
Twitter:missgu21_no3
Instagram:missgakushuin_no. 3

No.2　竹内（たけうち） 初菜（はな）さん
法学部政治学科３年
Twitter:missgu2021_no2
Instagram:missgakushuin_no. 2

No.1　野口（のぐち） 莉子（りこ）さん
文学部教育学科３年
Twitter:missgu21_no1
Instagram:missgakushuin_no. 1

No.5　倉持（くらもち） 竣（しゅん）さん
法学部政治学科４年
Twitter:mr_gu21no5
Instagram:mr_gu21no5

No.4　井上（いのうえ） 竜之介（りゅうのすけ）さん
法学部法学科２年
Twitter:mr_gu21no4
Instagram:mr_gu21no4

No.3　小嶋（おじま） 映毅（えいき）さん
理学部化学科３年
Twitter:mr_gu21no3
Instagram:mr_gu21no3

No.2　宮川（みやがわ） 拓実（たくみ）さん
理学部数学科１年
Twitter:mr_gu21no2
Instagram:mr_gu21no2

No.1　森（もり） 天志（みらい）さん
理学部物理学科３年
Twitter:mr_gu21no1
Instagram:mr_gu21no1

7月にミス学習院・ミスター学習院コンテストのファイナリスト計10名が発表された。11月の開催を前に、コンテストには注目が集まっている。全国の大学コンテストを扱う情報サイト「MISCOLLE」には専用ページが開設され、既に投票が受付中だ。今号では、ファイナリストの皆さん一人一人にお話を伺った。

（吉越友香・佐藤優衣）

ミス

今年で39回目を迎えるミス学習院コンテスト。紬系から織られた絹織物を意味する「紬（つむぎ）」を今年のテーマに、個性溢れる5人が出場する。

今回は、ファイナリストの野口莉子さん（教3）、竹内初菜さん（政3）、中村ななみさん（国3）、須田美帆さん（営4）、常住紅葉さん（英3）にお話を伺った。

―出場のきっかけ

野口：昔からお世話になっている学習院で、色々なことに挑戦したいと思ったからです。また、これから社会に出るにあたり、自分が本当にやりたいことを見つける良いきっかけになったらと出場を決意しました。

竹内：広告学研究会の方にお声をかけていただいたことです。学生時代の貴重な経験になると思い、出場しました。

中村：コロナ禍で自分を見つめ直したとき、限られた大学生活の中で自分にできることに挑戦したいと思ったからです。

須田：きっかけは昨年友達がミスコンに出場していたことです。彼女が活動しているのを見て私自身励まされたので、次は私が皆さんに元気を与えられる存在になりたいと思って出場しました。

常住：お誘いを頂いたのがきっかけですが、一度しかない大学生活なので、コロナ禍でもさまざまなことに挑戦したいと思ったからです。また、私は以前から保護犬・保護猫の里親探しの活動を行っていたので、これを機に多くの人に知ってもらいたいと思ったからです。

―自分のチャームポイント

野口：手だと思います。幼い頃からなぜか指を伸ばすことが癖で、そのおかげか、手が綺麗と言われるようになりました。

竹内：笑顔です。クールな性格だと思われることがあるのですが、友人といるときは思いきり笑うことが多いです。

中村：髪です。一度も染めたことがないので…！

須田：笑顔！見ると元気になると友達に言われることがあるので、笑顔は私のチャームポイントだと思っています。

常住：全力笑顔です！笑うと目がなくなります（笑）。

―投票者へのメッセージ

野口：いつも応援してくださる皆さん、本当にありがとうございます。これからも日々の投稿やライブ配信などで皆さんとたくさん繋がっていけたらと思っています。ぜひ投票していただけると嬉しいです。

竹内：いつも応援してくださる皆様、本当にありがとうございます。皆さんに応援したいと思っていただけるように自分らしく、そして楽しく活動していきますのでよろしくお願いいたします！

中村：いつも応援ありがとうございます。皆様の心温かいメッセージに励まされています。最後まで笑顔で頑張ります！

須田：いつも応援ありがとうございます。Twitterで投票報告してくださる方がいらっしゃるのですが、それを見ると多くの方々に応援していただいていることを改めて実感します。これからも頑張りますので応援よろしくお願いいたします！

常住：いつも応援ありがとうございます！何気ない日常をこんなに楽しく過ごせているのは皆様のおかげです！本当に毎日感謝の気持ちでいっぱいです！最後まで全力で頑張るので応援お願いいたします！

ミスター

今年のテーマは「With you」だ。このテーマについて、大学祭実行委員会ミスター学習院コンテスト統括・安本尚輝さん（政3）は「コロナ禍でも人と人が手を取り合い、各候補者が自身を表現できる場を作り上げたいです」と語ってくれた。

今回は、ファイナリストの森天志さん（物3）、宮川拓実さん（数1）、小嶋映毅さん（化3）、井上竜之介さん（法2）、倉持竣さん（政4）にお話を伺った。

―出場のきっかけ

森：大学生活で何か大きいことをしたいと考えていたときにコンテストへのお誘いを頂いたことです。他の大学にも人脈を広げられると思い、出場しました！

宮川：以前から芸能界に入りたいという夢がありましたが、失敗を恐れて踏み出せずにいました。そんなときにコンテスト参加のお声をかけていただいたので、芸能界に入るための第一歩になればと出場しました。

小嶋：「スーパースター」になる夢を叶える第一歩になればと出場しました。

井上：運営の方から勧誘を受けたことです。やらずに後悔するよりもやって後悔しようと、出場しました。

倉持：より多くの方との出会いを増やすためです。

―自分のアピールポイント

森：どんな状況にも対応できるところです！

宮川：絶対に勝つという気持ちは誰にも負けません！あとは彫りの深い顔です！

小嶋：自己肯定感と、このコンテストへのやる気の高さは他の人と比べても圧倒的に違うと思います。

井上：割と何でもできるところです。

倉持：身長が低く小柄で童顔なことです。高校まではコンプレックスでしたが、平均から離れている部分は一種のキャラクターとも言えますよね。そう考えたら、自分を面白くて可愛いし最高だなと思うようになりました。

―自分を一言で表すと？

森：「ナマケモノ」よく寝てるからです。

宮川：「炎」です！

小嶋：「段取りリスト」行動する際に段取りを気にするからです（笑）。

井上：「楽」です。

倉持：「コスパ人間」あらゆる事象のコストとリターンを考えるからです。

―投票者へのメッセージ

森：いつも応援してくださりありがとうございます！結果を残せるように頑張りますので、引き続き応援してくださると嬉しいです！

宮川：私には芸能界に入りたいという夢があります！このコンテストを通して多くの方に自分を知ってもらい、応援していただけるように頑張りたいです！

小嶋：毎日投票するのは大変だと思いますが、メッセージなどを送ってくれると本当に嬉しいです！皆さんの応援が1番の支えです！一緒にグランプリを取りましょう！

井上：皆さんの投票が僕のモチベーションになっています。本当にありがとうございます！今後も投票してくれたら嬉しいです！

倉持：毎日投票してくれる人には本当に感謝しています。私に時間を割いてくれている事実は絶対に忘れません。

安本さんは「今年は本当に色々な方々に立候補していただきました。持ち前の魅力をどのように表現するか、可能性は無限大です。見てくださる方々を飽きさせることは決してないと思います。ぜひご自身の推しを見つけて応援してあげてください」とコンテストの意気込みを語ってくれた。

今年の両コンテストは、オンライン・オフライン同時開催を予定している。公式サイト・SNSにアクセスし、各ファイナリストの素顔を見てみよう。

法学部同窓会総会開催

画面越しの活動を中心とした生活は、いまだ継続せざるを得ない。第28回法学部同窓会総会は時流に合わせてZoomで行われ、中には米国から申し込む方もいた。会長の宮坂裕子氏による冒頭挨拶の後、予算や理事及び監事選任に関する報告がされた。理事・監事には中村清昭氏、冨永悠太氏、中村紀一氏、楠田健介氏が就くこととなった。

理事・監事の顔ぶれを拝見すると、昭和40年卒から令和2年卒に至るまで、幅広い年代の方が任命されていることがうかがえる。

今後は若手理事を中心に、本学生が同窓会に何を求めているかをリサーチしていく方針である。

昨年度及び今年度の新入生の授業は遠隔形式が主流であり、学生たちはいまだに交流を制限されているのが現状だ。以前は、「オール学習院の集い」「総会・懇親会」への参加を呼びかけていた同窓会であったが、今後はさらなる支援策を模索していく必要がある。

最後に、宮坂会長から「長い人生を実りあるものにするため、さまざまな人との出会いを大切にし、豊かな感受性をもって学生生活を過ごしてほしいと願っております」と本学生へのメッセージを頂いた。人との邂逅が少ない現代こそ、一人一人との繋がりを大切にしたい。

（宮﨑　黎）

第28回法学部同窓総会の様子

千葉桜友会開催

本年度の千葉桜友会の会合はZoomで行われた。非対面の開催は、今回が初の試みであったという。参加人数は13名。会長の飯沼喜規氏、事務局の山田優子氏、同じく事務局の中村紀一氏の計4人は同じ会場からの参加であった。昨年は新型コロナウイルスの影響で、会合は中止であった。

そのため、画面越しではあるが、1年ぶりの会合に参加できた会員たちの様子はどこか楽しげだった。

主な議題内容は令和2年度の活動報告、会計報告、そして会則の改正の3点であった。それぞれの議題の採決は挙手制で行われ、会合はつつがなく進行した。

その後、オンラインで参加した9名の参加者からコメントを頂いた。最後に、飯沼副会長から閉会のお言葉を頂き、令和3年度千葉桜友会は無事閉幕した。

新型コロナウイルスが猛威を振るい始めて早2年。当分はこの状況は変わらないだろう。それ故、各団体は柔軟に環境に適応することが求められている。本年度は、千葉桜友会も時代の潮流に乗り、オンラインで会合を開催した。平均年齢が比較的高い本団体にとって容易ではなかったが、今回新たに事務局に就いた中村氏の協力により開催に至った。一刻も早い対面活動の再開を願うばかりだ。

（重野玲生フェル）

千葉桜友会の様子

学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588 東京都豊島区目白１丁目５番１号
黎明会館316号室

発行・編集人　野沢 竜太
年間500円

BOOKS KINOKUNIYA
紀伊國屋書店
学習院大学ブックセンター
2019.10.01
GRAND OPEN
☎03-5953-4420

2 深刻な気候変動

近年、気候変動の影響により、災害は激甚化している。その原因に目を向けつつ、新たな試みにも視野を広げよう。

紙面紹介

3 感性を磨く秋 芸術を堪能しよう

4 メダル量産！ 東京オリンピック

学習院大学新聞社
@gakushuinpress
一緒に新聞を作りませんか？
新入部員随時募集中！
気軽に follow me!

100th OUYUKAI Anniversary
「前へ。次へ。その先へ。」

学習院同窓会桜友会は、設立100周年を迎えました。
大正10(1921)年 »» 令和3(2021)年

一般社団法人学習院桜友会は、学校法人学習院を構成する、大学（大学院含む）、女子大学、高等科・中等科、女子高等科・中等科、初等科、幼稚園、8校共通の同窓会組織です。学習院で学んだ全員が会員で、現在その数は国内外80支部14万人を数えます。

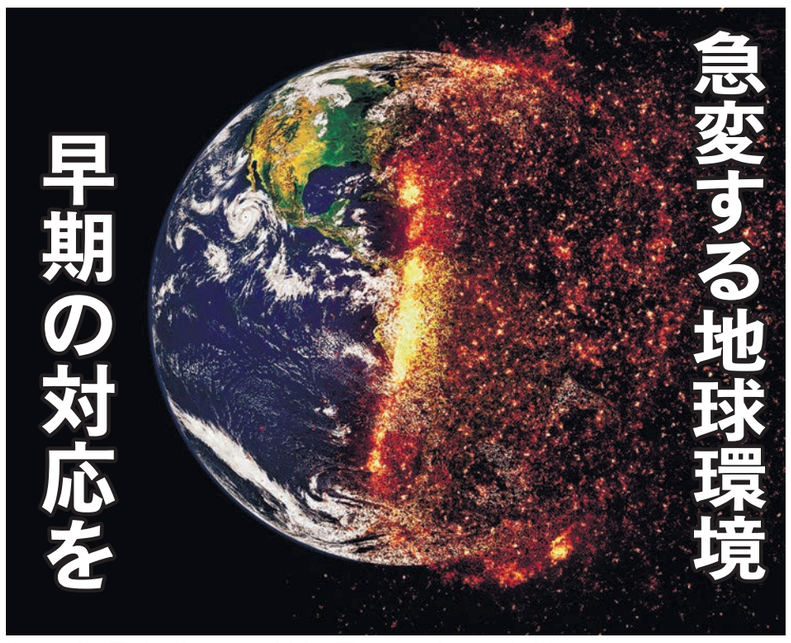
設立は大正10年（1921）、今年1月に100周年を迎えました。卒業生の懇親の組織であることは勿論、課外活動のサポートや就職支援などを通じて、皆さんの学生生活と深く関わっています。私たちと一緒に新たな学習院の歴史を作っていきましょう。

＜100周年の主な記念事業計画＞
学校法人学習院にキャンパス整備、新規講座開設等のための寄付
今秋にサントリーホールで記念チャリティーコンサートを開催*
記念式典と山中伸弥 京都大学iPS細胞研究所所長/教授の特別講演を開催*　*コロナウイルス感染防止対策のため限られた人数での開催となります。

學習院櫻友會
〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 学習院百周年記念会館内　TEL. 03-3988-3288　FAX. 03-3988-3853
https://www.gakushuin-ouyukai.jp/info/

急変する地球環境

早期の対応を



地球温暖化に伴い、世界中で問題となっているのが気候変動だ。その実情、対策を把握し、環境問題に目を向けることが求められている。

日本の気候はどう変化？その影響とは

日本における気候変動とは、具体的にどのような現象を指すのだろうか。日本の気候変動の観測事実、将来予測について明らかにし、その概要を掴む。

一つ目の観測事実として、平均気温の変化が挙げられる。日本の平均気温は上昇傾向にあり、100年あたり1・15℃の割合で上昇している。また、一日の最高気温が35℃以上の猛暑日や夜間の最低気温が25℃以上の熱帯夜の日数は、いずれも増加傾向を示している。

二つ目の観測事実は降水日数と雨の強さの変化だ。日本の場合、日降水量が100㎜以上の大雨の日数は増加傾向にある。一方で、日降水量が1・0㎜以上の日数は減少傾向にあり、弱い降水を含めた降水の日数は減少している。

日本における気候変動の将来予測として、ここまでで述べた二つの観測事実の活発化が示されている。平均気温は21世紀末までに、約2・1℃から4・0℃上昇し、その上昇幅は世界平均を上回ると試算された。降水に関しても、集中豪雨の頻度がほとんどの地域で増加する一方、降水日数は減少すると予測された。また、その他にも日本近海の海面水温や海面水位が長期的に上昇することが挙げられる。

ここまで述べてきた現象を踏まえ、そのような気候変動は、日本にどのような影響を与えているのだろうか。四つの分野ごとに考える。

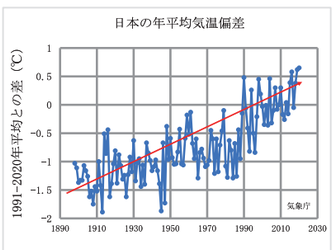
一つ目は、農林水産業だ。気温の上昇による作物の品質の低下や、栽培適地の変化が問題視されている。例えば、気温上昇によるコメや果実の品質の低下が既に全国で確認されている。そして、21世紀末までに、品質の高いコメの収量が増加する地域、減少する地域の偏りが大きくなるという。

二つ目は、植生や野生動物の分布といった自然生態系である。主に西日本で問題となっていた放棄竹林が、気候変動により、東日本や北日本においても顕在化している。このような変化が、地域の生態系や生物多様性、里山管理に悪影響を及ぼす可能性がある。また、沖合・沿岸部地域では、海水面の上昇が水産生物の分布に影響を及ぼしてしまう。浅瀬においても、藻場・干潟の分布域や、構成種の減少に伴う産業への影響が懸念されている。

三つ目は、水環境・水資源、低地・沿岸域だ。気候変動が水環境・水資源に及ぼす影響として、工業用水の温度の上昇、渇水による上水道の減断水が挙げられる。また、低地・沿岸域に及ぼす影響として、豪雨による洪水や大規模な高潮が挙げられる。スーパー堤防や防潮堤など国土強靱化対策が必要だろう。

四つ目は、健康、経済活動、国民生活だ。猛暑は熱中症の増加に拍車をかけ、人々の健康に影響が出るだろう。また、経済活動や国民生活において、さまざまな生産・販売活動や、各種のインフラに影響が出る可能性がある。従って、気候変動は、私たちの生活環境にも影響を及ぼすということを、心に留めておかなければならない。

（山川舜輔）



温室効果ガスと気候変動の要因

気候変動は、日本はもちろんのこと、世界中にさまざまな影響を与えている。では気候変動を引き起こす要因とは一体何であろうか。大きく分けると二つの要因が考えられる。

まず一つ目は、人為的要因である。エネルギーと温室効果ガスの関係は、右下のイラストのとおりだ。実は温室効果ガスがバランスよく熱エネルギーを吸収することによって、生物に適した気温を保っていることがわかるだろう。

温室効果ガスの具体的な例としては、主に二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素が挙げられる。人々は、優れた技術を用いて、さまざまな産業を急成長させてきた。結果、化石燃料を大量に使用し二酸化炭素などの温室効果ガスを過剰に放出し、大気中に吸収されるエネルギーを増大させ、地球を急激かつ過剰に暖めた。人類の進歩と大気中の温室効果ガスの量は比例し続け、地球温暖化はますます深刻化している。日本では、昨年に菅義偉総理が「2050年までに温室効果ガスを実質ゼロにする」という目標を掲げ、二酸化炭素の排出を抑制することに重きを置いている。

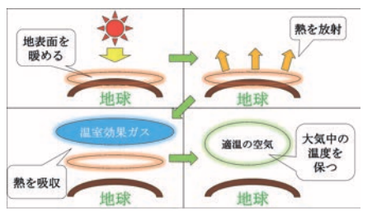
森林破壊も温室効果ガスを増加させる大きな原因となっている。森林が二酸化炭素を取り込み、二酸化炭素の濃度を下げていたが、森林を伐採することで二酸化炭素の吸収量が減り、大気中の二酸化炭素の濃度は高まる。また、森林の変化は水の循環活動や地表面の日射の反射量に大きな影響を及ぼすため、森林を伐採することには懸念が残る。

他にも気候変動の人為的要因である身近な例として、プラスチックごみが挙げられる。プラスチックは石油を原料とし、焼却する際に大量の温室効果ガスを発生させるため、代替素材の研究が活発だ。最近ではトウモロコシやサツマイモを原料とした植物性のプラスチックの製造も増えてきている。しかし、新たな耕作地を拓こうとすると、今ある森林を破壊せざるを得ないため、解決にはさらなる試行錯誤が必要だ。

気候変動が生じる二つ目の要因として、自然的要因が挙げられる。具体的には、太陽活動や海洋環境の変化、噴火による大気中の微粒子（エアロゾル）の増加である。人間の経済活動ではなく、自然が気候変動を引き起こしているのだ。特に地球上の約7割を占める海洋は大気との間でエネルギーの循環を行っている。もし海流や海水温などが変化すれば、大気に少なからず影響を及ぼすという。

気候変動は二酸化炭素の過剰な排出といった人為的な理由が注目されるが、自然的要因も併せて考慮する必要があるだろう。

（村瀬奈采香）



世界のトップを駆ける日本企業

近年、気候変動による環境・生物への影響が深刻になっている。これに対し、世界中の国や企業が気候変動対策を盛り込んだ戦略を立て始めており、その数は年々増加中だ。

国際的にみると、政府の地球温暖化対策は消極的だと非難されがちな日本。しかし、国内の企業は、各国の企業と大差がないほど真剣にこの問題に向き合っている。むしろ気候変動対策で言えば、日本企業の貢献度は先進国の中でも群を抜いている。

そこで今回は、気候変動対策に取り組む日本企業の世界における立ち位置、対策に取り組み始めた理由、そして現在行われている具体的な対策を述べていく。

はじめに、日本企業が気候変動対策に前向きな事が分かる資料を紹介する。

英国のNGOであるCDPは気候変動といった環境問題に対する企業の取り組みに評価付けを毎年行い、資料を公開している。2020年の調査結果では、CDPの中で最高評価とされているAリストに指定された企業数が最も多かった国は日本であった。Aリスト全体に占める日本企業の割合も年々増加しており、2020年時点で約20％となった。今後もこの割合は増加するだろう。

別の評価基準でも、日本企業の気候変動に対する対策の積極性がうかがえる。例えば、2021年のTCFD（企業の気候変動への取り組み、影響に関する情報を開示する枠組み）では、賛同企業数が米英を抜き世界第1位となった。

SBT（企業の科学的な中長期の目標設定を促す枠組み）でも、日本の認定企業数は1位の米国に次ぎ、堂々の2位であった。ランキング上位10カ国のほとんどが欧米諸国の中、日本はアジア圏では無類の強さを誇っている。

次に日本企業が気候変動に配慮した経営戦略を始めた理由を述べる。一つには投資家の動向が考えられる。近年、投資の世界では気候変動政策に積極的な企業を評価し、消極的な企業には投資を控える動きが広まっている。これは「グリーン投資・ESG投資」とも呼ばれ、温暖化の適応策と緩和策の間で生まれる新ビジネスに期待が高まっている証拠だ。

コロナ禍の社会・経済活動の自粛により、温室効果ガスなどの排出量は産業革命以降で最も減少しているが、大気中の二酸化炭素濃度は上昇し続けている。とすれば、投資家たちの気候変動に対する関心が今以上に高まる可能性は極めて高い。

投資家たちの傾向が変わらない限り、今後も日本企業は気候変動対策に積極的に取り組んでいくだろう。

日本の企業が現在行っている具体的な気候変動対策についても紹介する。

一口に対策と言っても、方法は多岐にわたる。再生可能エネルギーでは、太陽光、水力、そして水素やバイオマスを使う発電など、各企業は自社の強みを生かした戦略を取っている。

特定の技術に長けていなくても、企業はさまざまな方法で温室効果ガスの排出量の減少を成功させた。具体的には、直接的な排出量や事業活動で生じる間接的な排出量を抑えることで、各企業は将来的には脱炭素化を目指している。

この戦略によって、日本では分野に関わらず多数の企業が気候変動の政策に取り組むことが可能になっている。現在では、ICT、コンサルティング、金融といった分野の業界でも、気候変動対策に興味を示す企業がある。

気候変動の影響がさらに深刻になる中、日本企業の今後の対策からは目が離せない。

（岩波快成）

記者の眼

欧州の野心

欧州連合（EU）の欧州委員会は、域内の温室効果ガスの排出を2050年までに実質ゼロにする目標実現に向けた包括案を公表した。宣言だけでなく、具体案まで踏み込むのは主要な国・地域で初めてだ。

具体案の公表にあたっては、欧州委員会は、環境分野において他国との対立も辞さない姿勢を鮮明にしている。その中でも、特に強硬な態度で臨んでいるのが国境炭素調整措置（CBAM）だ。これは環境規制が緩い国からの輸入品に事実上の関税をかける仕組みであり、EU単独で発表したことに波紋が広がっている。

それでもEUは独自の発表にこだわった。その背景にあるのが、欧州の危機感だ。欧州はIT分野において米中に遅れを取り、世界覇権から排された。環境分野においてはEUの温室効果ガスの排出量は全世界の8％にすぎず、EUの存在感がかすみかねないとの危機感がある。脱炭素化のために必要不可欠なレアアースにおいては9割、コバルトやリチウムにおいても6割近いシェアを中国が占めており、欧州は中国に資源面で脱炭素化の首根っこを押さえられている。他方、米国はブッシュ元大統領が京都議定書の批准を拒否し、トランプ前大統領はパリ協定から離脱した過去がある。そのため、バイデン政権になってがパリ協定に復帰したものの、環境分野で米国が世界をリードできるか疑わしい。

また、内燃自動車を2035年までに事実上の販売禁止とすることや、自動車や冷暖房の燃料に炭素価格を課すことといった家計への負担増にも踏み込んだ。所得が比較的低い東欧では、不満が燻っており、低所得国に配慮が必要になるだろう。

以上の内容からは、環境分野で世界覇権を握ろうとするEUの野心が窺える。今回の発表は、「EUが環境分野の主導権を握るゲームに参加している」と示すためだろう。仮に欧州委員会が今回公表したルールを国際基準化できれば、近年低迷していたEUの存在感を高められる。

EUの発表に対し、米国や中国などとの間で摩擦が起こるのは確実だが、EUは一歩も譲る気はない。地球規模の課題である地球温暖化対策において、世界に先駆けて出発したEU。その野心は、果たして実を結ぶことになるのだろうか。

（岩下優斗）

花粉症に垣間見る気候変動

山間部に多く植生し、冬から春明けにかけて大量に花粉を飛散させる大木、スギ・ヒノキ。これらの花粉症に悩まされている読者も多いことだろう。もはや春の風物詩と化した花粉の大量飛散は、近年の気候変動に伴う水害や土砂災害の頻発と表裏一体の関係にある。

そもそもスギやヒノキといった木々は、人工的に植えられたものだ。背景には、元来植生していた広葉樹林が戦時中に大量に伐採された歴史がある。戦後にその穴埋めとして植樹されたのが、スギといった針葉樹であった。

これらの針葉樹には、在来種よりも「保水力」が低いという問題点がある。通常の雑木林では、落葉などから構成される腐葉土が、降り注ぐ雨水を吸収する役割を果たしている。しかし、スギやヒノキの植樹ではこの機能が考慮されていない。皮肉にも、これが近年の土砂災害の甚大化につながっている。腐葉土が機能せず地盤が緩みやすくなったことで、集中豪雨に対応できなくなっている。

人工的な植樹による副作用は、花粉症のような表面的な事象にとどまらない。私たちが環境問題について議論するには、生態系を一つのシステムとして考えることが重要だ。

（谷内幹生）

大和ことば　岩手へおでってくなんせ

「雨ニモマケズ　風ニモマケズ」と始まるこの詩は、恐らく誰にとっても馴染み深いものだろう。今もなお愛される作家の一人、宮沢賢治の代表作だ。彼は出身地の岩手県への郷土愛でも有名で、作品中に度々登場する「イーハトーブ」という語は岩手県を表すといわれている。今年は、そんな彼の生誕から125周年。そこで、今回は宮沢賢治の愛した岩手県で用いられることばを取り上げ、その魅力に触れていきたい。

岩手県は、周知の通り東北地方に位置しており、非常に寒い。そのため、この地方の方言には「口をあまり動かさずに喋る」という特徴があり、岩手方言もその一つだ。

一口に岩手方言といっても、実際は地域によって違いがある。例えば、青森県や秋田県、宮城県に隣接する地域は、これらの県の影響を多分に受けている。特に県南地域は旧伊達藩の領地であったため、そこで話される言葉は伊達弁と呼ばれるが、これは仙台弁の一部だという説がある。岩手県の中部、盛岡市周辺では旧南部藩の城下町であったことから、敬語の発達が顕著であり、その語彙や文法に旧体制の役職を反映した特徴が残っていることは大変面白い。

岩手方言に馴染みがなくても、語尾の「がんす」や一人称の「おら」などはご存知の人が多いのではないだろうか。こうした言葉がもつ可愛らしさや優しい響きも特徴的だ。

宮沢賢治の愛したイーハトーブの地には、豊かで多様な魅力を秘めた言葉が存在している。（大石瑛奈）

企画　山川舜輔
構成・レイアウト　船橋夏海

TOUGAKUSAI 2021
32nd 東京学生映画祭
TOUGAKU-SAI
2021.10.19 tue ～10.23 sat
会場：渋谷・ユーロライブ ,LOFT 9

感性を磨く秋

暑さが和らぎ、過ごしやすい季節が戻ってきた。今回はこの時期に楽しみたい、博物館・美術館や星空の特集だ。芸術に親しみ、秋を堪能しよう。

アートセンター　国立新美術館

「キャンパスメンバーズ」という制度をご存知だろうか。この会員制度に入会している大学などの学生や教職員は、展覧会などを無料または割引料金で何度でも観覧できる。

本学はこの制度に加盟しているため、ぜひとも本学学生は積極的に活用したい。芸術に関係する施設としては、東京国立近代美術館（千代田区）、国立新美術館（港区）、国立映画アーカイブ（中央区）の計3か所が利用可能だ。

今回は国立新美術館を紹介する。この美術館には年間約180万人が訪れ、展示スペースは国内最大級の1万4千平方メートルを誇る。館内には12の展示室とアートライブラリー、講堂や研修室もある。

この美術館の特徴の一つに、コレクションを持たず常設展示がないことが挙げられる。訪れるたびに新たなアートを鑑賞できるのだ。また作品鑑賞だけでなく、資料の閲覧からグルメやお土産選びに至るまで楽しむことができるのも魅力である。

来館者は「ガラスカーテンウォール」と呼ばれる、インパクトのある外観に迎えられる。

設計は世界的に有名な建築家、黒川紀章氏によるもの。館内は日本古来の行灯から着想を得たという。細長い板が配置された光の壁によって照らされている。

また、昨年の3月に「国立新美術館建築ガイドアプリCONIC（コニック）」の配信が始まった。このウェブアプリを使うと、館内の見どころに関する解説を聞いたり、館内のおすすめスポットを巡るツアーを楽しんだりすることができる。

また、現在「吉岡徳仁ガラスの茶室―光庵」が美術館正面入り口前で公開されている。ガラスを使用し光を表現した茶室に釘付けになること間違いなしだ。

国立新美術館にはカフェが三つある。特に2階の「サロン・ド・テロンド」は、館内の巨大な逆円錐の最上部にある、円形のカフェである。

さらに、3階にはフランス料理の巨匠であるポール・ボキューズが日本で初めて開いた「ブラッスリーポール・ボキューズ・ミュゼ」がある。どのカフェ・レストランも鑑賞後、余韻に浸るのにうってつけの場所だ。

10月1日から行われる展覧会には「庵野秀明展」がある。庵野秀明氏は今年3月に最新作が公開された『シン・エヴァンゲリオン劇場版』の総監督だ。この展覧会は、彼が携わった過去の作品から現在の活動までを網羅し、創作活動の秘密に迫る世界初の展覧会である。

芸術の秋。国立新美術館に足を運び、非日常的な体験の中で新たな発見をしてもらいたい。

（林美緒）

【国立新美術館】東京都港区六本木7-22-2　開館時間：10時～18時　問い合わせ先：050-（5541）-8600（ハローダイヤル）©国立新美術館

正面入口 © 国立新美術館

歴史の宝庫　博物館

博物館は、過去から受け継いだ資料や情報を閲覧することができる貴重な施設だ。常設展だけでなく、イベントや展示会など、普段見ることのできない資料を鑑賞できる点も魅力である。そこで今回は、東京国立博物館と江戸東京博物館について、今後行われる展示を含め紹介する。

東京国立博物館の特徴と展示会について触れたい。東京国立博物館は、日本で最も長い歴史を持つ博物館である。展示には総合文化展と特別展がある。総合文化展は、主に貯蔵品と寺社の寄託品で構成されている。作品が傷まないよう定期的に展示品を入れ替えているため、行くたびに違う作品に出会うことができるだろう。特別展はテーマを設定して行う大規模な企画展示であり、年に3～5回ほど開催される。ここでは近日開催予定の展示について紹介しよう。

特別展では10月12日～11月21日に平成館で『伝授大師一二〇〇年大遠忌記念最澄と天台宗のすべて』が行われる。本展は、東京、九州、京都の三つの国立博物館で開催する巡回展であるため、地域性を生かした展示が予定されている。東京会場の東京国立博物館では、東国を中心に全国に浸透した天台宗の精華を鑑賞できる。また、江戸天台の美術を一度に鑑賞できる貴重な機会だ。国宝の『聖徳太子及び天台高僧像　十幅のうち最澄』など、展示期間が短い作品もあるため十分注意したい。チケットは9月下旬発売予定であり、混雑緩和のため事前予約制を導入している。興味がある学生は、日時指定券を事前に予約すると良いだろう。

江戸東京博物館の特徴と展示会を紹介する。江戸東京博物館は、江戸東京の歴史と文化を振り返り、未来の都市と生活を考える場として開館した。展示には主に常設展と特別展がある。常設展では、徳川家康が江戸に入府してから約400年間を中心に、実物資料や復元模型などを用いて紹介している。

特別展では10月9日～12月5日に1階で『縄文2021―東京に生きた縄文人―』が行われる。1万年以上にわたって続いた縄文時代を生きた人々、特に東京の縄文人の暮らしに焦点を当てた展示会が開催される。東京地域の縄文時代を考える大規模な展覧会は1986年2月以来、35年ぶりだ。この機会に縄文時代の東京を想像してみてはいかがだろうか。

今回は二つの博物館を紹介したが、他にも興味深い展示やイベントを行う博物館は多くある。これをきっかけに、今後ぜひ博物館を外出先の候補として入れてみてほしい。

（春山朝香）

東京国立博物館本館

芸術とはなにか？　現代アートは語る

一体、これのどこが芸術なのか。1917年、ニューヨークのアンデパンダン展に激震が走る。架空人物のサインが記された男性用便器が出品されたからである。この作品は、フランスの作家、マルセル・デュシャン（1887～1968年）が手掛けたもので名は「泉」。本来、無審査・無賞を建前としているアンデパンダン展であったが、この作品ばかりは物議を呼び、展示は拒まれた。しかし、美術における今までの価値観に一石を投じ、後に美術史をも変える作品となる。

この「泉」を契機に新たな境地へと到達したのが、現代アートである。デュシャンは、鑑賞者が創造的行為に加わることによって作品は完成すると考えていた。そこから「アート」の定義が多様化した。絵画にとらわれない自由な作風が特徴的だ。

最近、若者を中心に人気を博している「チームラボ」も現代アートの一つである。最新の技術で観客をアートに没入させる、参加型アートを提供している。

そして、現代アートの中でも特に有名なのがイギリスを拠点に活動する謎の芸術家、バンクシー。オークションで落札された「風船と少女」をシュレッダーにかけたことで、世界中にその名を轟かせた。このシュレッダー事件は、オークションビジネスを批判する意図があったという。そのほかにも、メッセージ性の強い作品を数多く世に送り出している。バンクシーの芸術活動は、路上に落書きをするなど、実に過激なスタイルで、毎回議論を巻き起こしてきた。しかし、社会風刺が含まれる謎めいた作品が発見されるたびに、人々を魅了し、作品の意図について議論されていることもまた事実である。

芸術とはなにか。100年以上も前に問いは出された。答えはまだない。ただ、その答えは、私たち自身が決めてよいのだと教えてくれるのが、現代アートなのだ。

（川口千遥）

秋の星座を見つけよう

今年8月、8年ぶりに観測条件が最良となった「ペルセウス座流星群」。しぶんぎ座、ふたご座とともに「三大流星群」として数えられるこの流星群は、その中でも最大級の流星数を誇る。自宅からこの流星群を観た、という人もいるのではないだろうか。このような「天文現象」は、流星群の他にも毎月さまざまに起こっている。

秋の夜空は夏に比べ明るい星が少ない。しかし空気の透明度は高いため、星がより輝いて見えるという。今回は、今年中に観測できる現象の中で、特に注目されているものを観測方法とともに紹介しよう。

宇宙航空研究開発機構（JAXA）によると、観測するにあたり必要な持ち物は、コンパス、赤いセロハンテープで覆った懐中電灯、星座早見や星座アプリ、双眼鏡、食料とのこと。また、自然に囲まれた場所で天体観測をする際には、薄手の長袖やズボンで肌を覆うなど、虫よけ対策を忘れないようにしたい。

秋の星座を探すうえで目印となっているのが「秋の四辺形」である。春夏冬の「大三角」はほとんどが1等星からなっているのに対し、この四辺形は2等星と3等星からなっている。夜更けになると天頂近く（観測者の真上）に四つの星が四角形状に並ぶ。これが「秋の四辺形」だ。

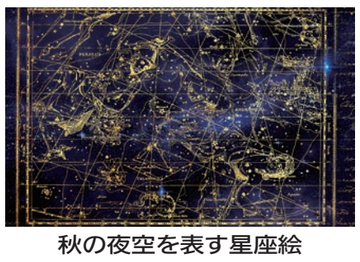
秋の四辺形を構成するのは、アンドロメダ座のアルフェラッツとペガスス座の胴体をつくる三つの星。そのため、別名「ペガススの四辺形」とも呼ばれる。

この他に、秋の夜空ではペルセウス座やカシオペヤ座など神話に登場する名前を持つ星座や、星座占いでおなじみのやぎ座やうお座などを観ることができる。

秋や冬の天体観測は日を追うごとに、星の最も良く観える時間が早まる。10月上旬では午後10時過ぎ、12月上旬なら午後7時頃だという。今年の11月8日には特に珍しい天文現象である「金星食」が起こる。これは金星が月に隠される現象で、良い条件で観られるのは2012年以来9年ぶり。さらに、10月以降各月で流星群が起きる。

心を癒し、リラックス効果のある星空。疲れを感じる、そんな日には夜空を見上げ、燦然と輝く星たちと共に心身を癒してほしい。

（平間優希）



秋の夜空を表す星座絵

夜空に浮かぶ　星座と神話

暑さが次第に落ち着いてきたこの頃は、夜空に浮かぶ星座を観察するにはうってつけの機会だろう。そこで、8月以降に見られる星座と、それにまつわる神話について二つ紹介する。

一つ目は、夏の大三角形の中で最も輝く星であるベガを含む「こと座」。8月下旬の20時が見頃だ。この星座の背景には、竪琴の名人であるオルフェウスの悲劇的な物語がある。ある日、オルフェウスの妻のエウリディケが蛇に噛まれ亡くなった。悲しみに暮れた彼は、冥界へ行き妻を連れ戻すことを決意する。冥界の住人たちを琴の音色で魅了し、ついに冥界の王ハデスと対面した彼は妻を取り戻すことを願った。そして演奏に感動した王妃に説得され、地上に出るまで後ろを見ないことを条件にハデスは彼の願いに応じた。喜んだ彼は、もう少しで地上に出るというところで後ろを向いてしまう。その瞬間エウリディケは冥界へ連れ戻されてしまい、生き返ることが不可能になった。後悔した彼は琴を奏でることをやめ、後に憔悴し亡くなった。それを哀れに思った最高神ゼウスは、オルフェウスの琴を夜空に上げ星座にした。その星座こそがこと座なのである。

二つ目は、9月下旬の20時が見頃である「いるか座」。この星座の神話にも竪琴の名人が登場する。ある音楽祭で琴を演奏し優勝したアリオンは、多くの賞品や賞金を手に入れた。そして船で帰ろうとしたところ、金品を奪おうとする船員たちから脅されてしまう。最期に琴を奏でさせてほしいと船員たちに頼んだ彼は、演奏が終わると海に身を投げた。その瞬間、琴の音色に惹かれたイルカたちが彼を背中に乗せた。そうして助けられた彼は無事に帰ることができたのだ。その様子を見ていた神々がイルカたちの功績を認め、夜空に上げたのがいるか座である。

今回紹介した星座の神話以外にも神話は数多く存在する。コロナ禍で外出しづらい日が続くが、夜空を見ながら神話に思いを馳せることは、良い気分転換になるに違いない。

（北見凪）

ネメアの獅子とヘラクレス　～絵画と星座～

星空を見上げるとき、頭に何を思い浮かべるだろうか。星座の多くはギリシャ神話に由来を持つ。例えばヘラクレスが乗り越えた12の試練は有名だ。かつての人はヘラクレス自身や彼に倒されたものたちを星座にすることにより、英雄の勇姿に思いを馳せた。古代ギリシャの文化は欧州の文化の源泉でもあるため、ギリシャ神話は教養の一つである。

そして史上大勢の画家たちが神話の一場面を題材にして名画を残した。バロック美術の巨匠ルーベンスが描いたのは「ネメアの獅子とヘラクレス」（1615年）だ。この獅子退治は、わが子を殺めた償いとしてヘラクレスに与えられた最初の試練である。ネメアという谷に住む獅子を倒すヘラクレスの雄々しさが、ドラマチックに表現された作品だ。ルーベンスが描く男性像は、古代彫刻のようにたくましい肉体美が特徴である。大袈裟なほどに盛り上がった筋肉には陰影がついており、ヘラクレスが渾身の力で獅子と対峙していることがわかるだろう。また赤らんだ顔、険しい表情も闘いの壮絶さを物語っている。獅子の爪が肌に食い込むところからは、痛みがひしひしと伝わってくる。これはルーベンスがリアルかつダイナミックに描いたことで、緊迫感が伝わってくるからに違いない。

古今東西、英雄譚は人々の胸を躍らせる。こういった絵画を鑑賞すると、星がより輝いて見えるだろう。

（三島凜花）

ピーテル・パウロ・ルーベンス作「自画像」

企画　林美緒・三島凜花
構成・レイアウト　岡本涼花

史上初！無観客開催
～開会式・閉会式～

晴れ渡る空を五色のスモークで彩るブルーインパルス。その飛行で東京は熱気に包まれた。新しい形での開催となった今大会の式典に注目しよう。今回のオリンピック・パラリンピックの式典に共通するコンセプトは「Moving Forward」だ。これは「前を向いて生きる」ことを表したものである。困難な状況下でも前を向いていく意識のもとで、式典が開催された。

2021年7月23日午後8時。史上初の無観客での開催で待ちに待った開会式が始まった。花火の打ち上げから始まり、天皇陛下が見守られるなかで、ダンスショーなどさまざまな催し物が行われた。追悼式では、黙祷を通じて新型コロナウイルスにより亡くなった人々に追悼の意を表した。聖火リレーでは、柔道家の野村忠宏さんと元レスリング選手の吉田沙保里さんがスタートをきった。その聖火が次々にバトンを繋ぎ、最後のランナーとしてテニスの大坂なおみ選手に聖火が渡された。そして、聖火台に火がともされ、スポーツを通じて心を一つにする平和の祭典が幕を開けた。

17日間に及ぶ大会を終え、8月8日午後8時に閉会式がスタートした。閉会式では秋篠宮殿下が見守られるなか、宝塚歌劇団による国歌斉唱や音楽パフォーマンス、そして男女マラソンの表彰式が行われた。次回大会への引き継ぎ式では、オリンピック旗が小池百合子東京都知事からIOCのバッハ会長、そしてパリのイダルゴ市長に引き継がれた。この様子が配信されたパリ市内は歓喜の熱気に包まれ、早くも次回大会への盛り上がりを見せたという。そしてオリンピック聖火が包まれるように納火したことで今大会は幕を閉じた。

今大会の式典では、苦境のなかでも人々がさらなる平和を願う場面が多々あったように思える。開会式のスピーチにおいて東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の橋本聖子会長は、「自らを信じて、前に進み続けてきた皆さんの軌跡は、かけがえのない宝物になります」と述べた。またバッハ会長はこう述べた。「より早く、より高く、より強くなるためには、私たちは連帯するしかありません」暗い時代こそ互いに連携しながら我々は前を向いて生きなければならない。そして前を向いて未来へ向かうことで、2024年パリ大会を迎えたい。（桑原鈴）

24人の侍 悲願の金
～野球～

国際野球大会「WBSCプレミア12」での優勝から2年、稲葉篤紀監督率いる野球日本代表、通称「侍ジャパン」は東京オリンピックの舞台で再び世界野球の頂点に立った。これは野球がオリンピック種目として実験的に実施される「公開競技」であった頃を含めると37年ぶり、正式種目となってからは初めての快挙であり、日本中が歓喜に沸いた。今回野球がオリンピック競技として開催されたのは、2008年の北京大会以来、13年ぶりの出来事である。稲葉監督も当時外野手として代表に選出されたが、日本は惜しくも4位という結果に終わった。当時日本代表に選ばれていた選手の多くは、既に現役を退いており、今回の侍ジャパンでその大舞台を踏んだのは、当時19歳の若さで代表に選ばれていた、田中将大投手ただ一人となった。

特に投手陣は若手選手を多く起用している。なかでも森下暢仁投手、栗林良吏投手、伊藤大海投手の3人は大卒プロ1年目のルーキーにして、トップチームのメンバーとして日の丸を背負った。

今大会では、まず出場する6か国がそれぞれA・Bグループに分かれて一次リーグを戦い、グループごとの順位を決める。その後の決勝トーナメントでは、両グループにおける同順位のチーム同士が対戦し、さらに敗者復活を含めた変測的な方式でメダルを争うことで、消化試合をなくすことができる。

一次リーグから計5試合を戦った日本だが、そのすべてを僅差で勝利している。準々決勝の米国戦では、9回裏の土壇場で同点に追いついて延長戦に持ち込み、10回裏の攻撃で甲斐拓也選手のサヨナラ打によって勝利を掴んだ。その強敵、米国とは決勝戦で再び相まみえた。投手陣の無失点リレーに加えて村上宗隆選手の先制アーチ、そして吉田正尚選手のヒットと相手のエラーによる追加点で相手を突き放し、見事栄冠に輝いた。

侍ジャパンにとって東京2020大会は、パンデミックによる行動制限に加え、自国開催の重責など、見えないモノとの闘いでもあった。しかしこの金メダルは、日本史上最多のメダル獲得数に貢献しただけでなく、日本中の野球ファン、そして人々に夢と感動を与えただろう。次なる舞台にむけて、若き侍たちの旅路が始まる。（野地百華）

北京の夢をもう一度
～ソフトボール～

2008年の北京大会以降、正式種目から除外されていたソフトボール。今回の東京大会で3大会ぶりに正式種目に復帰し、日本は見事に金メダルを獲得。北京、東京大会での連覇を達成した。

今大会では、日本・米国・カナダ・メキシコ・オーストラリア・イタリアの6か国が参加した。注目すべきは米国。北京以前の大会では3連覇を成し遂げ、今大会前の世界ランキングでは1位を誇る、いわば日本のライバルである。総当たり方式で決勝に出場するチームを決めるため、一度は必ず宿敵・米国と対戦する必要があった。

7月21日の開幕以降、日本は順当に勝利を収めていった。しかし7月26日の一次リーグ最後の試合であった、対米戦。日本は1対1で迎えた7回裏にホームランを浴び、サヨナラ負けを喫した。米国に負ける形にはなったが、最終順位を2位につけていたため、決勝戦への進出が決定。そして、1位米国との金メダルを懸けた再対戦が決まった。

決勝戦、先発には絶対的エースである上野由岐子選手が登板し、強打線の米国を相手に5回無失点の好投を見せる。攻撃では、渥美、藤田両選手のタイムリーヒットによって2点を先制した。6回途中には後藤選手が登板し、1死1、2塁のピンチを招くもダブルプレーに仕留め、米国に得点を与えない。そして最終回には上野選手が再登板し、三者凡退の投球で日本は見事金メダルに輝いた。

今大会で重要な役割を果たしたのは、投手の上野選手であった。6試合中4試合に先発し、球数は389球にも及んだ。

上野選手は、以前の北京大会にも出場した大ベテランである。当時もエースとして41 3球を投じ、日本を金メダルに導いた。チーム最年長であり、エースの座を担う彼女の存在は、チームにとって大きなものとなったに違いないだろう。

上野選手は大会後、正式種目への復帰について「諦めなければ夢は叶う」と語った。私たちに多くの感動を与えてくれた日本のソフトボール。今後の大会で再び復帰し、正式種目として輝き続けることを期待したい。（北村優衣）

おつかれさまです 水谷選手
～卓球～

今年のオリンピックで日本中が特に熱くなった競技の一つに卓球が挙げられるだろう。卓球はスピーディーにラリーを繋ぎ、巧みに自分の技術を駆使する、ひとときも目が離せない種目だ。この競技に出場した水谷隼選手は卓球のメダル獲得に非常に大きな貢献をした。ここでは、水谷選手が活躍した試合に注目しよう。

今回の東京オリンピックで初めて卓球の男女混合ダブルスが導入された。導入目的には、IOCが掲げる「ジェンダー平等」の影響があるようだ。その種目で水谷選手と伊藤美誠選手のペアが強敵中国を破り、初代金メダルを獲得した。試合後、水谷選手は、インタビューで「共に息があっている」、「互いに切磋琢磨しながら成長した仲だった」と語った。この二人だからこそ、栄光をつかめたのだろう。また、男子団体戦では、張本智和選手、丹羽孝希選手、そして水谷選手の組み合わせで見事銅メダルを獲得した。

東京オリンピックで多大な活躍をした水谷選手は悩んだ末、現役を引退し卓球界から身を引くことを決めた。引退を決めた一番の理由は数年前から発症した目の病気である。水谷選手は数年前から視力が低下していて卓球のボールをうまく追うことができなくなっていた。そのため「オサートレンズ」と呼ばれる器具を装着しながら試合を行うなどの治療を継続して卓球と向き合っていた。しかし水谷選手は、病気が完治しないため引退することを決意。一本のミスが勝敗を大きく左右する卓球特有の事情を考慮したのだろう。水谷選手は、「やり残したことはなく悔いはない」、「最高のやめどきがきた」と述べている。

幼少期より卓球に全力で取り組み、病気を抱えているにも関わらず、たくさんの活躍と感動を与えてくれた水谷選手は、間違いなく卓球の歴史に名を残すことだろう。今後の活躍が期待される後輩たちにとっても水谷選手は憧れの存在となるはずだ。金メダルへの道を照らす人物として、水谷選手はいつまでも語り継がれると思う。これからの日本卓球もますます熱狂した戦いから多くの感動があるだろう。（小関圭祐）

大会ボランティアに配布された五輪公式ピンバッジ

怒濤の追い上げ
～スケートボード～

東京オリンピックで初採用されたスケートボード。7月25日に男子ストリート決勝が行われた。激戦を制し、見事金メダルを獲得した堀米雄斗選手（22）の活躍を取り上げる。

スケートボード男子ストリートは、街中を模したコースで行われる。45秒間に何度も技を繰り出す「ラン」を2回、一発勝負の大技で競う「ベストトリック」を5回披露し、得点の高い4回の合計点で順位を決めるのだ。1回の満点は10・00となる。

堀米選手は2回目のラン終了時点で4位とあまり優位ではなかった。しかし、3回目の「ノーリー270・ボードスライド」という大技を成功させ、一気に首位に躍り出た。この技は背中からジャンプし、270度回ることからこの名がつけられている。直後にジャガー・イートン選手（米）に順位を抜き返されるも、運命の4本目。「ノーリーバックサイド270・ノーズスライド」を成功させ、この日最高点となる9・50点をマークした。再逆転の末、最終チャレンジも高得点をたき出し、クールな性格の彼だが「うっしゃ～」と喜びの声が漏れた。

スケートボードは今大会からオリンピック種目として認定され、多くの人の注目を集めた。その舞台での歴史的快挙ののち、本人はこう語った。

「こうした状況の中、多くの国民がオリンピック開催に反対していると聞いて緊張していたけれど、今回こうして自分が夢の舞台で金メダルを獲れました。日本の人たちも全員ではないと思うけど、感動を与えられたと思っています。オリンピックが開催されてよかったと思うし、ボランティアやサポートをしてくれている人たちに本当に感謝しています」

今大会において日本勢が多くのメダルを勝ち取ったことにより人気が一層高まっているこの競技。昨年4月ごろからスケートボードを始める人が急激に増加した。屋外で一人でも楽しめる点が受けたとみられている。スケートボードは楽しい反面、路上走行などの迷惑行為や危険性も指摘されているのが現状だ。安全面に細心の注意を払ったうえで、競技が広まったら嬉しい。（村戸柚太）

大会を支えたボランティアたち

8月8日、オリンピック旗が東京からパリへと引き継がれ、57年ぶりの東京オリンピックは無事に閉幕した。今大会は新型コロナウイルスの感染拡大により、一時は開催すらも危ぶまれていた。それでも閉会式まで無事に終えることができたのは選手含め大会関係者、日本国民の皆さま、そして大会ボランティアの方々のおかげである。

今回はバレーボールのボランティアに参加した弊社スポーツ部長の吉岡佐和子さんに、活動内容や感想についてお話を伺った。

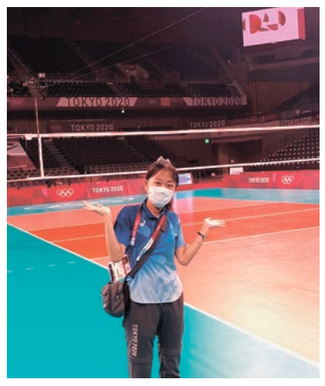
大会期間中、吉岡さんは会場である有明アリーナでアスリートサービスチームのメンバーとして活動していた。主な仕事は選手が試合に集中できるように、コートのモップ掛けや更衣室の準備・片付けをすることだった。感染症対策によって十分な距離を取ることが要求されていたので、彼女が選手と接触できる機会はほとんど無かったという。それでも、厳しい渡航制限が続いている中、各国の選手たちや彼らの試合を間近で見ることができた経験は彼女に国際交流の大切さを再認識させたそうだ。

会場での新型コロナウイルスの感染症対策についても語っていただいた。大会中は毎日の体温測定はもちろんのこと、4日に1回PCR検査の結果を提出することになっていた。各ボランティアには携帯用のアルコールスプレーも配られた。また、モップでコートを清掃する際は毎回使い捨ての手袋を着用したという。徹底された感染症対策の下で行われた会場準備はアスリートに安心感を与え、彼らが試合に専念することに大いに貢献しただろう。

しかし、華々しい大会の裏で、さまざまな苦労もあったそうだ。感染の急拡大で、事前に予定されていた研修が全て中止となった。そのため、大会が始まってから設備の配置や仕事のやり方を覚えなければならなかった。また、試合後の清掃が終電まで続き、運営に手配された宿泊施設で一夜を過ごしたこともあったらしい。

このように、東京大会は選手のみならずテレビに映らない多くのボランティアらの多くのボランティア・その他関係者の尽力によって実現したのである。

彼らの献身的な支えがあったからこそ、国立競技場の聖火は一度も絶えずに灯り続けることができたのだろう。（岩波快成）


メインコートに立つ吉岡さん

企画　吉岡佐和子
構成・レイアウト　吉岡佐和子
取材　岩波快成

2021
Miss Gakushuin Contest
今年のテーマは「紬（つむぎ）」
５人それぞれが個性溢れる糸であり、５人全員で紡ぎ合わせて
今年のミス学習院コンテストを素晴らしい「紬」として完成させて欲しい。
また、自身の魅力を一つ一つ紡ぎ、立派で美しい「紬」に仕上げて欲しい。
そんな想いを込めて今年のテーマとしました。
学習院大学広告学研究会

No.1 野口 莉子 教育学科 3年
No.2 竹内 初菜 政治学科 3年
No.3 中村 ななみ 国際社会科学科 3年
No.4 須田 美帆 経営学科 4年
No.5 常住 紅葉 英語英米文化学科 3年